

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：クラ・ゼミ保育園 吉野町	種別：認可保育所
代表者氏名：木村 直美	定員（利用人数）： 43名（41名）
所在地：〒232-0014 横浜市南区吉野町1-1-5 グレイスT吉野町2階	
TEL：045-253-3715	
ホームページ： https://kurazemi-hoiku.com/facility/yoshino/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2019年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社クラ・ゼミ		
職員数	常勤職員： 11名	非常勤職員： 7名
専門職員	保育士 14名	栄養士 1名
	調理師 2名	子育て支援員 1名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室2室、厨房1室、事務室兼医務室1室	1. 施設が駅に近く利便性が高いです。 2. 保育室は0～1歳児1室、2～5歳児1室となっています。

③理念・基本方針

「保育理念」

「その子」をしっかりと見つめ、「その子」の立場になって考え、「その子」の成長に喜びを感じます。うれしい時もつらい時も私たちが寄り添い、こどもたちが「自分をかけがえのない存在」だと思えるよう努力します。

「保育方針」

かけがえのない乳幼児期に安定した園生活が送れるように子ども一人一人と向かい合った保育を進めます。

「保育目標」

自分が好きな子。人が好きな子。個性の「きらり」とひかる子。ありのままの自分を認め、自信をもって生きることができる子を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

- 異なる文化（中国、フィリピン）の影響を受けている園児に対しても、日本人の園児と全く変わらない保育を行っています。特別扱いはしません。なぜなら、彼らはこれから日本の社会の中で生きていくのですから、そのための準備を保育の中で行っていきます。
- ネイティブ講師による「英語で遊ぼう」を毎週0歳児から5歳児まで行っています。毎週続け今年で3年目です。
- 体験型保育を実践しています。保育の中で興味を抱いた対象を、体験をもって追及していきます。とくに日常的な体験（お店でのお買い物等）を重んじて行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月22日(契約日)～2022年1月15日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回(年度)

⑥総評

◆特に評価の高い点

1. 子ども一人ひとりを大切にされた保育が実践されています

園は、保育理念・方針に基づき、一人ひとりの子どもの課題にしっかりと向き合い、子どもが「その子」らしさを発揮できるように支援しています。職員会議等で子ども一人ひとりの発達の様子や家庭の状況等を職員間で話し合っ課題と目標を共有し、皆で同じ対応ができるようにしています。

保育士は子どもに前向きな言葉で話しかけ、子どもの言葉や仕草、表情から子どもの気持ちを汲み取り、寄り添っています。幼児でも抱っこをしたり抱きしめたりしてスキンシップをたくさん取って信頼関係を築き、子どもが自分の要求や欲求を表出できるように働きかけています。子ども同士の関係性を把握し、けんかなどの場面では保育士が間に入って仲立ちをしています。外国籍など言葉で自分の気持ちを表現することが苦手な子どもも多くいますが、ジェスチャーや絵カード、写真などその子どもが理解できる方法も併用しながら、平易な言葉でゆっくりと分かりやすく話しかけています。生活習慣の違いにも配慮し、食事などは無理することなく少しずつ食べられるものが増やせるように支援しています。保育士の働きかけのもと、子どもたちは少しずつお互いにコミュニケーションが取れるように育っていて、自由遊びの時間には、友だちと一緒にごっこ遊びをしたり、おしゃべりをしながら絵を描いたり、それぞれが好きなことをして過ごしています。

2. 保護者の子育て支援に力を入れています

保護者が園の取り組みを理解し、安心して子育てができるよう支援しています。毎日の送迎時には、保育士は保護者一人ひとりと会話をし、子どものエピソードを伝えながら保護者の声を引き出し、相談にのっています。乳児は毎日、幼児は必要に応じて保育アプリを用いて情報交換しています。年2回のクラス懇談会と年1回の個人面談、お祭り遊びや運動会などの保護者参加行事を実施し、保護者が園の取り組みを理解し、子どもの成長を感じられるようにしています。保護者の価値観や生活習慣を尊重しながらも、子育てに必要な情報を丁寧に提供したり、定期的に声をかけて保護者の悩みを聞いて相談にのるなど、一人ひとりの状況に応じた支援をきめ細かく行っています。

◆改善を求められる点

・職員間で課題を共有し、計画的に改善に向けて取り組んでいくことが期待されます

園では、毎朝ミーティングを実施するほか、職員会議を始めとして各種会議を実施し、子どもの状況についての情報共有を図っています。日々振り返りを行うとともに、年度末には自己評価表を用いた自己評価をするなどの取り組みもしています。ただし、自己評価の結果を基に話し合い、園の課題を抽出して目指す保育の方向性について掘り下げるなどはしていません。今後、園としての自己分析を実施し、職員間で議論を進めて改善計画を策定する仕組みを作っていくことが期待されます。

◆さらなる取り組みが期待される点

・コミュニケーション支援のための技術習得のための取り組みが期待されます

園には、外国籍などコミュニケーションに課題がある子どもや保護者が多く在籍しています。保育士は、子ども一人ひとりに寄り添い子どもの発信を受け止めるように努めていますが、観察時にも、コミュニケーション不足から泣き続けるなどの行動を取っている場面を見ることができました。多様化する子ども、保護者のニーズに対応するためにも、法人グループの専門機関などを活用して、コミュニケーション支援技法などの研修を実施していくことが期待されます。理論的な裏付けや専門的な技術を習得することで、支援技術の向上だけでなく職員の自信やモチベーションの向上、負担感の軽減につながると思われます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント (50字×12行=600字以内目安です)

第三者評価を受けるのはほとんどの職員が初めてでした。今回の受審が当園の保育等の見直しをする機会となり、運営法人・園長・主任・全職員それぞれの立場に求められる職務と、それに対する具体的な課題を確認することができました。

例えば「中・長期事業計画の策定について」。全職員で取り組める事業計画を立て、しっかりとした流れを明確にした保育を行っていくこと。地域・社会の交流の場となる機会を積極的に求め保育園の持つ社会的意義を表して行くこと。見えてきた課題は沢山ありますが、大切なお子様を安心して預けられる場として、質の高い保育園、子ども職員も一人ひとりが「きらり」と輝ける保育園をみんなで目指していきたいと思えます。

保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご協力いただきました。結果、園の総合評価、満足度が高かったことを、職員一同大変うれしく思っています。改めて保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

最後になりましたが「市民セクターよこはま」の調査員の皆様には的確にご指導いただいたこと、また聞き取り調査では温かいアドバイスをいただきことに感謝いたしております。ありがとうございました。

クラ・ゼミ保育園 吉野町
園長 木村 尚美

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり